

コルマール国際旅行博覧会で日本の自治体が観光客誘致活動

パリ事務所

交流 150 周年を記念して“日本”がテーマに

2014 年 11 月 7 日（金）から 9 日（日）までの 3 日間、フランス北東部のアルザス地方コルマール市で開催された国際旅行博覧会（SITV）にて、日本の自治体が観光客誘致のためのプロモーション活動を行いました。

この旅行博は同市で毎年開催され、今回で 30 回目を迎えます。今回、アルザスと日本の交流 150 周年を記念して日本が名誉招待国となりました。日本エリアでは、日本政府観光局（JNTO）が中心となり、日仏の旅行会社や日本各地の 12 の自治体がブースを出展して訪日旅行の PR を実施。クレアパリ事務所からも岐阜県や奈良県、熊本市からの派遣職員が会場で各自治体の魅力を伝えるべく活動しました。



日本をテーマにした大規模な展示



自治体ブースで地域産品を PR するクレア職員

知事によるトップセールスも

会場内でひときわ目立つ大規模なブースを設置し、存在感を放っていたのが岐阜県です。県の観光・食・地域産品を紹介し、地酒の試飲や地域産品を活用したワークショップを開催。メインステージには東濃地方の地歌舞伎役者 3 人が連日登場し、会場を沸かせました。さらに初日には、^{ふるたはじめ}古田 肇 知事も来場してトップセールスを実施。来場者に「GIFU」を強く印象付ける機会となりました。

さらに岐阜県はこの機会に、コルマール市のあるオ＝ラン県と「経済・観光に関する協力覚書」を取り交わしました。締結式は旅行博の開会式に先立って行われ、在フランス日本国大使、在ストラスブール日本国総領事の列席の中、古田知事とオ＝ラン県のシャルル・ビュットネール県議会議長によって覚書が取り交わされました。当覚書の内容は、両県が、経済、観光、自治体交流等の分野において、協力関係を発展・維持することを相互に確認するもので、航空及び自動車産業、伝統工芸品、大学等研究機関の交流、ワインや日本酒

など「食」を通じた観光と特産品の相互プロモーションの推進、両県内の自治体間交流の促進を目指したものとなっています。

なお、同会場では高山市とコルマル市及び都市圏共同体が経済・観光協力協定を締結したほか、11月6日には世界遺産白川郷を有する白川村とリクヴィル村が友好協力推進宣言書を取り交わすなど、両県内の自治体間交流が非常に活発化しており。今後の両地域の交流の発展が期待されます。

岩手県も、知事によるトップセールスを行いました。11月7日にパリ日本文化会館で開催された『「つながり」に感謝～東日本大震災津波岩手県復興報告会～』（詳細は[クリアパリ HP](#))で講演を行った達増拓也知事が8日にブースを訪れ、漆器や南部鉄器などの伝統産業や日本酒をPRしました。



岩手県は達増知事がトップセールスを実施



オランダ県との覚書を取り交わす岐阜県の古田知事

フランス人 CIR の頼もしい活躍

共同でブースを出展した奈良県と和歌山県は、多くの自治体ブースが並ぶなか、土地の特徴がひと目で分かるようにと吉野の桜と高野山のポスターを掲示するなど工夫を凝らしていました。東京や京都といったゴールデンルートを除いた地域のなかでは、フランスにおける両県の知名度は比較的高く、「NARA」や「Mt.KOYA (モン・コーヤ=高野山)」といった地名について聞いたことがあるという来場者も少なくなかったようです。

このブースには、奈良県職員とともに奈良県の CIR であるムルドゥ・ハマドゥさんが派遣され、奈良県派遣のクリアパリ職員とともに来場者にフランス語で対応していました。フランス語のネイティブが常駐するという効果は大きく、ブースを訪れる方への質問にも的確かつ丁寧に答え、さらには地元 TV 局(国営フランス3)からの取材にも応じるなど、奈良県の PR に貢献を果たしました。当日放



奈良県ブースで活躍したハマドゥ CIR

送されたニュース番組では、90 秒の放送時間のうち 30 秒が奈良の紹介に割かれており、インタビューの効果はとくに大きかったようです。

地方開催でも感じられた日本への関心

会場ではブースのほか、茶道体験や和菓子作りのデモンストレーション、折り紙のワークショップなど日本文化を体験できるイベントも行われ、多くの来場者が足を止めて見入っていました。フランス国内のみならず、ドイツやベルギーなどからの来場者もあり、また、ツアー客をバスで会場に連れてくる事業者もあるそうで、3日間で3万人を超える方がこの旅行博に足を運んだそうです(主催者発表)。来場者のなかには、すでに日本へ何度も行ったことがあるという方も多く、東京や京都といった有名なところ以外にどんな観光地があるのか、各自治体のブースで多くの方が熱心に質問されていました。

地方では日本をテーマにした大規模なイベントが少ないということもあり、地元メディアの注目度もかなり高かったようです。初日には多くの報道陣が会場を取材に訪れ、2日目(11月8日)の地元紙朝刊では、1面で扱われていました。

今後もパリだけでなく、フランスの各地でこうした日本の地方を紹介するイベントが開催され、より多くの方に日本の地方の多様な魅力が伝わることを期待しています。

【コルマール国際旅行博覧会の概要】

会期	2014年11月7日(金)～9日(日)
会場	コルマール市パーク・エキスポ(使用面積:約1万3,000㎡)
対象	一般
入場料	6ユーロ(当日券)
出展者数	約400団体(主催者発表)
入場者数	約3万人(主催者発表)

(谷崎所長補佐 熊本市派遣)